活動の目的

筑波大学民俗学研究室は、平成19（2007）年、宮城県石巻市牡鹿地区表浜において調査実習を実施した。大原浜・給分浜・小渕の方々のご協力を得て、民俗や歴史の聞取り調査を行い、その成果を報告書『フィールドへようこそ！2007 牡鹿半島表浜の民俗』として発表した。この調査をきっかけに、牡鹿半島の人々と牡鹿半島の交流が続けられてきたが、同地は平成23（2011）年、東日本大震災に見舞われた。最大26メートルの津波が到達し、多くの人命や住まいが失われ、主産業である養殖業も甚大な被害を被った。過去に幾度も津波に遭遇してきた牡鹿半島の人々は、この困難にも前向きに取り組まれているが、復興に向け、高台移転というさらなる集落の変容に迫られている。そこで私たちは、民俗資料・文化財の調査を通してかつての地域社会の記憶を記録したいと考え、個人宅や公民館に保管されていた民俗資料の緊急調査及び保存、住民への聞き取り調査を実施した。

本調査活動は、筑波大学社会貢献プロジェクトの登録・採択を受け、平成 24（2012）年 4 月より開始した。

平成 24（2012）年度：大原浜における民俗資料の緊急調査、転居者への聞取り調査
（筑波大学社会貢献プロジェクト登録課題「東日本大震災津波被災地域における民俗資料・文化財の緊急調査」）
平成 25（2013）年度：牡鹿地区全域（網地島を除く）における悉皆調査
（筑波大学社会貢献プロジェクト採択課題「東日本大震災津波被災地域における民俗資料・文化財の調査及び保存活動」）
平成 26（2014）年度：泊浜・大原浜を中心とした民具調査、関係団体への聞取り調査
（筑波大学社会貢献プロジェクト採択課題「東日本大震災津波被災地域におけるコミュニティ復興支援活動」）

以上の調査を通して、災害と人の関係、牡鹿地区の貴重な民俗文化や歴史について、多くのことを学ばせていただき、また私たちは民俗学を通して何ができるかを考えることができた。牡鹿地区のコミュニティ復興の一助となることを願い、調査成果やご提供いただいた資料を本報告書にまとめた。

なお、本報告書の刊行は、平成 26 年度筑波大学社会貢献プログラム助成金によった。

また、デジタル版の発行に当たり、一部内容を改訂した。

（文責：戸邉優美）